

英 語

1 学習指導要領改訂の趣旨

平成28年12月の中央教育審議会答申の中で、職業以外の専門教育に関する各教科・科目について、次のような改訂の基本的な考え方が示されている。

- ・ 職業以外の専門教育に関する各教科・科目についても、専門分野ごとに求められる資質・能力を、関係団体等との間で共有しつつ、三つの柱を踏まえて各教科・科目の位置付けを明確化し、目標を示すこととする。
- ・ また、専門教育を主とする学科の特色が一層生かされ、一人一人の生徒の進路に応じた多様な可能性を伸ばすために、より高度で専門的な学習ができる科目構成に見直すなどの改善を行う。
- ・ 具体的には、例えば、専門教科「英語」においては、高度な発表、討論・議論、交渉等ができる総合的なコミュニケーションの力を高める学習の充実を図る観点から、「ディベート・ディスカッションⅠ・Ⅱ」を設けるなどの改善を行う。

2 改訂の内容

(1) 教科の目標の改善

【英語科の目標】		
外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、英語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
英語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、英語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。	英語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

(2) 科目の改善

ア 科目構成

改 訂		現 行	
科 目 名	標 準 単 位 数	科 目 名	標 準 単 位 数
総合英語Ⅰ	設置者の定めるところによるものとする。	総合英語	設置者の定める
総合英語Ⅱ		英語理解	ところによるも
総合英語Ⅲ		英語表現	のとする。
ディベート・ディスカッションⅠ		異文化理解	

ディベート・ディスカッションⅡ		時事英語	
エッセイライティングⅠ			
エッセイライティングⅡ			

・ 必履修科目は「総合英語Ⅰ」及び「ディベート・ディスカッションⅠ」。

「話すこと」、「書くこと」における発信力の強化や、高校生の卒業後の進路の多様化などに対応するため、より高度で専門的な科目を新設し、計7科目構成とした。

「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと [やり取り]」、「話すこと [発表]」、「書くこと」の言語活動やこれらを結び付けた言語活動を通して、5つの領域を総合的に扱うことを一層重視する科目（「総合英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」）を設けるとともに、「話すこと」を中心とした発信力及び論理的な思考力や表現力を強化する指導を行う科目（「ディベート・ディスカッションⅠ・Ⅱ」）、複数の段落から成るエッセイなどを書くことを中心とした発信力及び論理的な思考力や表現力を強化する指導を行う科目（「エッセイライティングⅠ・Ⅱ」）を新設した。

科目の段階がⅠからⅡ、Ⅲへと上がるにつれて、生徒がより少ない支援（学習の過程で考えられる様々な配慮）で自律的に、言語活動における課題を遂行する力を育成できるようにすることとしている。なお、英語科における各科目においては、全科目が専門教科に属する科目であることを踏まえ、中学校における学習内容との接続に留意した「多くの支援」を必要とする科目を創設していない。

イ 各科目の特徴

<総合英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ>

【総合英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの目標】

英語学習の特質を踏まえ、以下に示す、聞くこと、読むこと、話すこと [やり取り]、話すこと [発表]、書くことの5つの領域（以下この節において「5つの領域」という。）別に設定する目標の実現を目指した指導を通して、「英語科の目標」の「知識・技能」及び「思考力・判断力・表現力等」に示す資質・能力を一体的に育成するとともに、その過程を通して、「英語科の目標」の「学びに向かう力・人間性等」に示す資質・能力を育成する。

- ・ 「総合英語Ⅰ」、「総合英語Ⅱ」及び「総合英語Ⅲ」（以下「総合英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」という。）は、5つの領域別の言語活動及び複数の領域を結び付けた言語活動を通して、コミュニケーションを図る資質・能力を一層伸ばすため、5つの領域の総合的な指導を行う科目である。
- ・ 「総合英語Ⅰ・Ⅱ」における学習内容は、基本的には「英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ」の内容と同様であるが、本科目が専門教科に属する科目であることを踏まえ、より自律的な学習を目指し、「英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ」より少ない支援で目標を達成することとしている。「総合英語Ⅲ」については、「英語コミュニケーションⅢ」を発展させた内容となっている。

【各領域における目標】

	総合英語Ⅰ	総合英語Ⅱ	総合英語Ⅲ
聞くこと	日常的话题について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、一定の支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握することができるようにする。	日常的话题について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、必要な情報を聞き取り、話の展開や話し手の意図を把握することができるようにする。	日常的话题について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、必要な情報を正確に聞き取り、話の展開や話し手の意図を把握することができるようにする。

＜ディベート・ディスカッションⅠ・Ⅱ＞

【ディベート・ディスカッションⅠ・Ⅱの目標】

英語学習の特質を踏まえ、以下に示す、話すこと〔やり取り〕の領域において設定する目標の実現を目指した指導を通して、「英語科の目標」の「知識・技能」及び「思考力・判断力・表現力等」に示す資質・能力を一体的に育成するとともに、その過程を通して、「英語科の目標」の「学びに向かう力・人間性等」に示す資質・能力を育成する。

- ・「ディベート・ディスカッションⅠ」は、高等学校の英語科において、全ての生徒に必ず履修させる科目の一つであり、「話すこと〔やり取り〕」の言語活動及び複数の領域を結び付けた言語活動を通して、ディベートやディスカッションなどの「話すこと」を中心とした発信力及び論理的な思考力や表現力を強化する指導を行う科目である。また、「ディベート・ディスカッションⅡ」においては、「ディベート・ディスカッションⅠ」の学習を踏まえ、それらの指導を発展的に行う科目である。
- ・本科目における学習内容は、本科目が専門教科に属する科目であることを踏まえ、「論理・表現Ⅰ」の内容を発展させたものとなっている。よって、ここでは、ディベートやディスカッションだけではなく、目標が設定されていない「話すこと〔発表〕」や「書くこと」についても適宜扱い、スピーチやプレゼンテーションをはじめとして、専門科目としてふさわしい内容を取り扱うことが求められる。

【領域「話すこと〔やり取り〕」における目標】

	ディベート・ディスカッションⅠ	ディベート・ディスカッションⅡ
話すこと〔やり取り〕	日常的な話題や社会的な話題に関する論題について、使用する語句や文、議論の展開などにおいて、 <u>一定の支援を活用すれば</u> 、資料を的確に活用し、多様な語句や文を用いて、賛成又は反対の立場をとった上で、論理的に一貫性のある議論を展開できるようにする。	社会的な話題に関する論題について、使用する語句や文、議論の展開などにおいて、 <u>支援をほとんど活用しなくても</u> 、 <u>複数の資料を的確に活用し</u> 、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて効果的に用いて、賛成又は反対の立場をとった上で、 <u>聞き手を説得することができるよう</u> 、論理的に一貫性のある議論を展開できるようにする。
	日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句や文、議論の展開などにおいて、 <u>一定の支援を活用すれば</u> 、資料を的確に活用し、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して詳しく話して伝え合うことができるようにする。	社会的な話題について、使用する語句や文、議論の展開などにおいて、 <u>支援をほとんど活用しなくても</u> 、 <u>複数の資料を的確に活用し</u> 、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて効果的に用いて、 <u>課題の解決策について合意形成することができるよう</u> 、 <u>他者の意見をなどに配慮しながら自分自身の意見や主張などを詳しく話して伝え合うことができるようにする</u> 。

＜エッセイライティングⅠ・Ⅱ＞

【エッセイライティングⅠ・Ⅱの目標】

英語学習の特質を踏まえ、以下に示す、書くことの領域において設定する目標の実現を目指した指導を通して、「英語科の目標」の「知識・技能」及び「思考力・判断力・表現力等」に示す資質・能力を一体的に育成するとともに、その過程を通して、「英語科の目標」の「学びに向かう力・人間性等」に示す資質・能力を育成する。

- ・本科目は、専門教科の学習において、「書くこと」の活動を中心とした学習を希望する生徒に選択履修させる科目として創設した。「書くこと」の言語活動及び複数の領域を結び付けた言語活動を通して、複数の段落から成るエッセイなどを書くことを中心とした、発信力及び論理的な思考力や表現力を強化する指導を行う科目である。また、「エッセイライティングⅡ」は、「エッセイライティングⅠ」の学習を踏まえ、それらの指導を発展的に行う科目である。

- ・また、本科目における学習内容は、本科目が専門教科に属する科目であることを踏まえ、「論理・表現Ⅰ」の内容を発展させたものとなっている。よってここでは、エッセイなどを書くだけではなく、目標が設定されていない「話すこと [やり取り]」や「話すこと [発表]」についても適宜扱い、ディスカッションやプレゼンテーションなどの、専門科目としてふさわしい内容を取り扱うことが求められる。

【領域「書くこと」における目標】

	エッセイライティングⅠ	エッセイライティングⅡ
書くこと	<p>日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、<u>一定の支援を活用すれば</u>、資料を的確に活用し、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることができるようにする。</p>	<p>日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、<u>支援をほとんど活用しなくても</u>、<u>複数の資料を的確に活用し</u>、多様な語句や文を<u>目的や場面、状況などに応じて効果的に</u>用いて、情報や考え、気持ちなどを読み手を引きつけたり説得したりできるよう、論理の構成や展開を工夫して複数の段落から成る文章で<u>詳しく</u>書いて伝えることができるようにする。</p>
	<p>社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、<u>一定の支援を活用すれば</u>、資料を的確に活用し、多様な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることができるようにする。</p>	<p>社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、<u>支援をほとんど活用しなくても</u>、<u>複数の資料を的確に活用し</u>、多様な語句や文を<u>目的や場面、状況などに応じて効果的に</u>用いて、意見や主張などを読み手を引きつけたり説得したりできるよう、幅広い視点から論理の構成や展開を工夫して複数の段落から成る文章で<u>詳しく</u>書いて伝えることができるようにする。</p>